

令和7年度 第1回久留米市食育推進会議 議事録

日時：令和7年7月29日（火） 14：00～15：30

場所：久留米市職員会館メルクス 3階ホール

出席者：橋本会長、浅野副会長、吉田委員、末次委員、山下委員、菊池委員、友野委員、池田委員、吉瀬委員、江崎委員、永田委員、末安委員、尾形委員、笠委員、若江委員、藤田委員、馬場委員（代理）、橋本委員、大野委員、平田委員（代理）
20名

欠席者：山下委員、森山委員、和田委員 3名

事務局：農政部 井上次長

農政課 戸上課長、藤原主幹、池上補佐、松岡主査、澁田

農業の魅力促進課 石橋課長、吉武主査

子ども未来部子ども保育課 中村課長、重永

子ども未来部こども子育てサポートセンター 乙丸所長、小林補佐

教育部学校教育課 田中課長、藤原

教育部学校保健課 深田課長、相浦主査

健康福祉部保健所健康推進課 渋谷課長、山口

環境部資源循環推進課 植田課長、執行

傍聴者：なし

次第：1 会長あいさつ

2 委員紹介

3 第4次久留米市食育推進プランについて

4 議案

第1号議案 令和6年度 久留米市食育推進会議 事業実績及び決算、監査

第2号議案 令和7年度 久留米市食育推進会議 事業計画(案)、予算(案)

5 報告

(1) 第4次食育推進プラン

目標指標の進捗状況と基本施策ごとの取組状況（中間総括）

6 その他

議事：

1 会長あいさつ

2 委員紹介

3 第4次久留米市食育推進プランについて

事務局説明（プラン概要、1年延伸について）

質問・意見なし

4 議案

第1号議案 令和6年度 久留米市食育推進会議 事業実績及び決算、監査

質問・意見なし

原案のとおり可決

第2号議案 令和7年度 久留米市食育推進会議 事業計画(案)、予算(案)

質問・意見なし

原案のとおり可決

5 報告

(1) 第4次食育推進プラン

目標指標の進捗状況と基本施策ごとの取組状況（中間総括）

A 委員	朝食を欠食する割合について、目標指標の評価はCである。現場で幼稚園、保育園の子どもたちを見ている方の意見を聞くと、先生たちは頑張っていると感じる。 しかし、評価がCなのは学校や小さい子どもを育てている家庭で、各々の格差があると考えていいのか。
事務局	全国が出している平均よりも久留米市の朝食欠食率が多いという結果である。経年で見ると、小学校は令和4年度が2.0%、令和5年度が2.9%、令和6年度が2.2%という状況。中学校は令和4年度が2.3%、令和5年度が2.9%、令和6年度が3.4%で少しずつ悪化している。 捉え方によると思うが、全く食べていないという背景は2つあると考える。一つは生活リズムが乱れてきていること。もう一つは家庭環境で朝食を食べさせてもらえてないこと。体力テストとも相関関係があり、毎日朝食を摂っている子に比べて朝食を欠食する子は体力が低い。そして特に今の時期は学校が休みなので、二つ目の家庭環境という部分は、ソーシャルワーカーを通じた関わりという地道な対応が必要。
B 委員	全国の調査結果のデータということで、学年が対象となっているため正確な数値と取組みから見える状況は若干変わってくると思う。小学校、中学校では栄養教諭が給食の状況を見るために毎日学級を回っており、個々に応じて声掛けもしている。小学1年生の保護者を対象に、2学期には給食の栄養や残食についての話もしている。また、無理やり食べさせるのではなく、子どもたちの食に対する関心を高めるために啓発も行っている。 このように数えきれないほどの取組みを学校では行っている。ぜひ家庭でも共有していただき、共に子どもたちを育てていきたい。
A 委員	久留米市も学校も様々な取組みを頑張っている状況が伝わってくるが、目標指標の達成にはつながっていない。残食率が生きる力を育む食育に繋がっているのか疑問であり、目的目標と、評価の方向が合致していないためC評価になっているのではないかと思う。第5次食育推進プランでは、現場での取組みが反映できるような目標指標にしたらいと思う。

会長	次期プラン作成時に検討させていただく。
C 委員	残食率の計算方法をききたい。突然欠席する子どもや不登校の子どもがいても学校給食を作ると思うが、その子たちの分はどうなっているのか。いろんな国の子どもがおり、味覚に合わない、食べられない子の分も残食率に入れられてしまうのか。
事務局	毎日の給食は生徒、教職員の人数分を作っているため、急な休みの生徒の分も作っている。不登校が続いており、給食を止めてくれという要望のあった分は作らないが、不登校でも来るかわからない生徒の分は作っている。そのため多めになってしまうが、おかわりをする子がいるので、その子たちに食べてもらうことで残食率を減らしている。 残食率は学校によってばらばらである。多様な国籍の生徒がいる学校で残食率が高い学校はあるが、味覚に合わないことが原因なのか分析は出来ていない。しかし、食文化が違うので味覚に合わないということはあると思う。
C 委員	目標指標と基本施策の整合を図るのは難しいと思う。
事務局	久留米市は主食副食など全部含めて、学校給食の残食率は3%程度で推移している。国が毎年数字を出しているわけではないのでデータは古くなるが、平成25年に環境省が出している全国平均は6.9%。よって久留米市は全国に比べて残食率は低いと言える。目標指標の評価としてはCだが、全国と比較すると高いほうではない。
D 委員	色んな行動に対する行動目標はあると思うが、その結果久留米市の子どもたちの感染症等病気に罹る割合の変化、体力や学力などの変化など 現実に見られるのか。
事務局	クロス集計をしており、体力は相関関係がある。朝食を欠食すると脳の働きに影響するため学力にも関わってくる。そのため、朝食を摂取したほうが朝から勉強に集中できると言われている。 すべてに因果関係があるかどうかまでは断言できないが、学校を通じて保護者に朝食が大事だと、啓発活動のなかで伝えている。
D 委員	朝食以外でも子どもたちに影響があるのか気になって質問した。
会長	次期プランを作成する令和8年度に一定の総括をして、どう解決するのか整理する。
E 委員	学校給食で導入した久留米産農産物の使用割合の評価がCで残念な気持ちである。どれくらいの量が使われているのか教えていただきたい。
事務局	令和6年度の久留米産農産物は40品目で量は404,103kg、金額にすると2億円程度。年々久留米産農産物に使用する金額は増えており、令和4年度が1億8千万円、令和5年度が1億8千8百万円である。しかしそれ以上に近年の物価高騰もあり、全体の金額が増えているため、割合としては低くなっているのが現状で目標を達成できていない。
E 委員	久留米市は農業が基幹産業であり、若い農家もたくさんいる。個人的には新鮮な野菜が忘れられていると思う。もう少し、久留米産農産物の鮮度の高い野菜を使ってもらえたら子どもたちの学校の楽しみも

	増えると思うのでよろしくお願いします。
F 委員	小学生と中学生の子どもが二人いるが、食育をどう伝えていくかということは私自身も考えている。食べることは生きることであり、どうやって野菜が作られているのか、過程を見せていく事も大事だと思っている。 学校でも毎年給食の試食会をしている。去年は 30 人くらいが参加をしたが、意識の高い人が参加する傾向にある。 また、朝食を欠食することが子どもの成長にマイナスになると感じているので、朝食を食べて学校に行ってほしいと思う。P T Aとしても何ができるか、議論を深めていく。
G 委員	朝食を食べずに学校に行っている子どもが多いことと、3 歳児の共食の回数が低いという久留米市の状況を知って驚いている。自分の家は大丈夫と思うだけではなく、みなさんの子どもはどうかなのか、目の届く範囲だけでも気にかけたいと思う。
H 委員	J A くるめ女性部では子どもたちと一緒に味噌づくりをしている。ある学校では、小学 3 年生で「姿を変える大豆」という国語の授業がある。その一環として味噌づくりの依頼がきた。大豆を粒がなくなるまで潰し、麴を混ぜ寝かせたら家庭に持って帰るということをおこなった。 孫の話であるが、ある朝味噌汁を作ってくれており、家族は感謝し、孫は自分が作った味噌で味噌汁が食べられて嬉しいし、私は成長を感じることが出来た。このように一緒にものを作る喜びを体験させてあげられたらいいと思う。 女性部でも様々な手伝いをしており、最近では幼稚園や P T Aからも要望がある。声がかかったら伺うのでよろしくお願いします。

6 その他

男女共同参画リーフレットについて説明